2026 年 11 月 27 日

# 岡山県感染症週報 2026 年第 47 週（11 月 16 日 ～ 11 月 22 日）

## 12 月 1 日は『世界エイズデー』です

岡山県では『世界エイズデー』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動および保健所・支所で夜間・休日などの HIV 検査を実施します。詳しくは「今週の注目感染症」をご覧ください。



レッドリボン
エイズに対する理解と支援の象徴

**岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です**

**岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です**

◆2026 年　第 47 週（ 11 / 16 ～ 11 / 22 ）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況（第 47 週届出分）

第 46 週　2 類感染症　結核　1 名（20 代　女）

第 47 週　2 類感染症　結核　5 名（20 代　男 1、30 代　男 1・女 1、60 代　男 1、70 代　男 1）

3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　3 名（O157：幼児　女 1、30 代　男 1、O 血清群不明：50 代　女 1）

4 類感染症　レジオネラ症　1 名（70 代　女）

5 類感染症　後天性免疫不全症候群　1 名（60 代　男）

侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（70 代　男）

梅毒　1 名（20 代　女）

百日咳　1 名（幼児　男）




© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

○インフルエンザは、県全体で 569 名（定点あたり 11.38 人）の報告がありました。

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 27 名（定点あたり 0.54 人）の報告がありました。

○急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 3,722 名（定点あたり 74.44 人）の報告がありました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多くなっています。

---

1. インフルエンザは、県全体で 569 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 10.00 → 11.38 人）。岡山県は 9 月 28 日に**「インフルエンザ注意報」**を発令し、広く注意を呼びかけています。詳しくは「インフルエンザ週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『2026/27 年シーズン　インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中！』をご覧ください。
2. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 27 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 0.56 → 0.54 人）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報』をご覧ください。
3. 急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 3,722 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 73.82 → 74.44 人）。詳しくは、**「☆急性呼吸器感染症（ARI）情報」**および岡山県感染症情報センターホームページ『急性呼吸器感染症（ARI）情報』をご覧ください。
4. 腸管出血性大腸菌感染症は、2026 年第 47 週に 3 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 101 名となりました（2025 年の同時期：76 名）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『腸管出血性大腸菌感染症注意報　発令中！』をご覧ください。
5. 梅毒は、2026 年第 47 週に 1 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 147 名となりました（2025 年の同時期：233 名）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『梅毒について』をご覧ください。

流行の推移

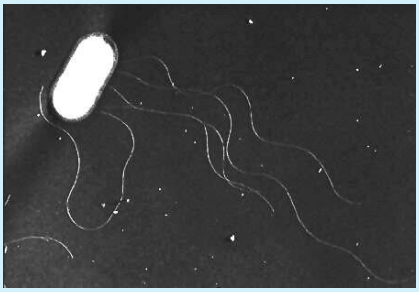
| 疾病名 | 定点あたり報告数 | | 推移 | 疾病名 | 定点あたり報告数 | | 推移 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 前週 | 今週 | | | 前週 | 今週 | |
| インフルエンザ | 10.00 | 11.38 | ↗ | 突発性発しん | 0.43 | 0.46 | → |
| COVID-19 | 0.56 | 0.54 | → | ヘルパンギーナ | 0.39 | 0.25 | ↘ |
| 急性呼吸器感染症(ARI) | 73.82 | 74.44 | → | 流行性耳下腺炎 | 0.00 | 0.04 | ↗ |
| RSウイルス感染症 | 1.00 | 1.14 | ↗ | 急性出血性結膜炎 | 0.00 | 0.00 | → |
| 咽頭結膜熱 | 0.11 | 0.11 | → | 流行性角結膜炎 | 0.08 | 0.33 | ↗ |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 2.11 | 2.93 | ↗ | 細菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | → |
| 感染性胃腸炎 | 3.61 | 2.36 | ↘ | 無菌性髄膜炎 | 0.40 | 0.00 | ↘ |
| 水痘 | 0.68 | 0.29 | ↘ | マイコプラズマ肺炎 | 0.20 | 0.40 | ↗ |
| 手足口病 | 0.14 | 0.18 | ↗ | クラミジア肺炎 | 0.00 | 0.00 | → |
| 伝染性紅斑 | 0.00 | 0.00 | → | 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | 0.00 | 0.00 | → |

【記号の説明】 前週からの推移　↗ ：増加　→ ：ほぼ増減なし　↘ ：減少　増加･減少 ： 前週比10%以上の増減

## 岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

# ◆◆◆ 腸管出血性大腸菌感染症◆◆◆

腸管出血性大腸菌感染症は、**ベロ毒素産生性の大腸菌(EHEC)**で汚染された食物などを経口摂取することによっておこる感染症です。また、糞口感染によるヒトからヒトへの二次感染もおこります。



腸管出血性大腸菌 O157:H7 の電子顕微鏡写真
(国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト)
を加工して作成。

### ＜症状＞

無症状のこともありますが、通常 3～5 日の潜伏期を経て、激しい腹痛、頻回の水様便の後に血便となります。さらに溶血性尿毒症症候群(HUS)、脳症などの重篤な合併症を発症し、死に至ることがあります。

### ＜予防対策＞

●食品は中心部までしっかり加熱しましょう

- 食肉の生食は避けましょう。(特に若齢者、高齢者および抵抗力が弱いハイリスクグループに対しては生肉又は加熱不十分な食肉を食べさせないようにしましょう。)
- 腸管出血性大腸菌は加熱により死滅します。したがって、**肉の中心部まで十分に加熱**(中心温度 75℃で 1 分間以上)することが重要です。

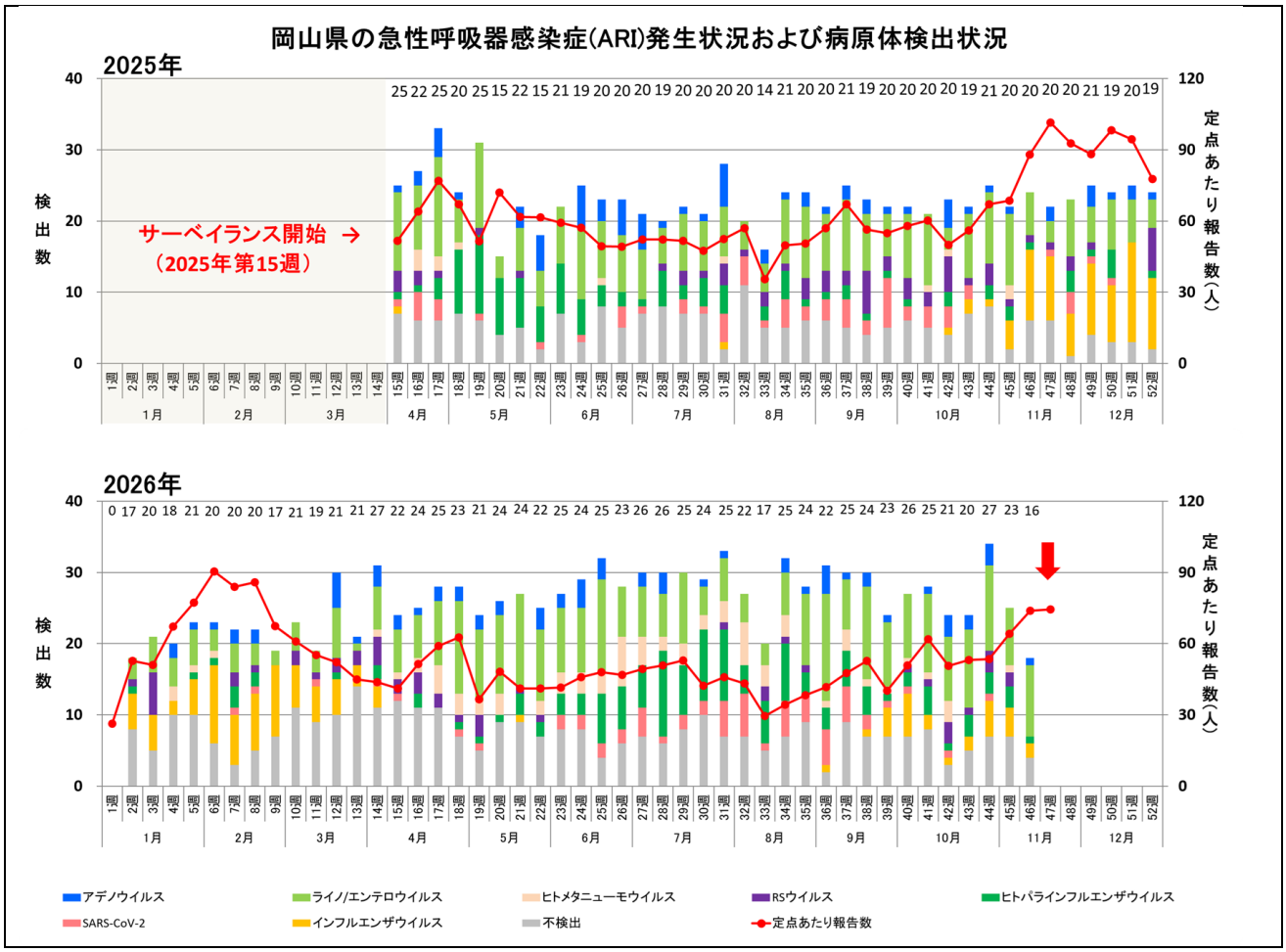
●二次感染を防ぎましょう

- トイレ後には石鹸と流水でよく手を洗いましょう。
- 焼肉をする際など、「生肉を扱うはし」と「食べるはし」は使い分けましょう。

腸管出血性大腸菌感染症(国立健康危機管理研究機構)
腸管出血性大腸菌Q&A(厚生労働省)
肉を安全に食べるためのポイント(政府広報オンライン)

# ☆急性呼吸器感染症（ARI）情報

## 1.　岡山県の流行状況（第 47 週（ 11 / 16 ～ 11 / 22 ））




※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 3,722 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 73.82 → 74.44 人）。地域別では、備中地域（132.80 人）、岡山市（81.94 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

2026 年第 47 週に環境保健センターに搬入された検体はありませんでした。

## 2.　新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ 新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）

○全国の状況

→ SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）

## 今週の注目感染症

# ☆後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

### ●後天性免疫不全症候群（エイズ　AIDS）とは

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによって起こる病気ですが、HIV 感染＝エイズではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。発症までの期間は通常数年程度を要するとされていますが、近年は短い症例もみられています。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、エイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでエイズ発症を防止することが可能になっています。

なお、エイズ発生動向年報では、感染症法の後天性免疫不全症候群の届出において AIDS として報告があったもの（エイズを発症したもの）を「患者」、無症候性キャリア（無症候期のもの）またはその他（指標疾患以外の何らかの症状を認めるもの）として報告があったものを「HIV 感染者」として集計しています。

### ●感染経路、予防方法および感染の確認方法

HIV の主な感染経路は、①性行為による感染、②血液を介しての感染（覚せい剤などの依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用）、③母親から赤ちゃんへの母子感染、の 3 つです。

①は、不特定多数との性行為を避ける、性行為においてコンドームを使用することで予防可能です。

③は、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで赤ちゃんへの感染を 1 %以下に抑えることができます。（エイズ Q&A（エイズ予防情報ネット））

HIV に感染すると、通常 6～8 週間ほどで、血液中から HIV 抗体が検出されるようになります。感染初期にはインフルエンザに似た症状が現れることもありますが、症状だけで HIV 感染の有無を判断することはできません。感染しているかどうかを確認するには、HIV 検査を受けることが必要です。

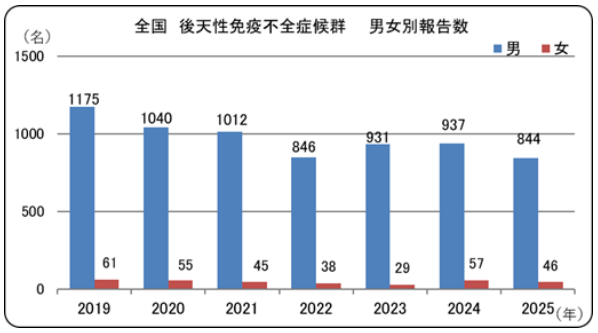
### ●発生状況

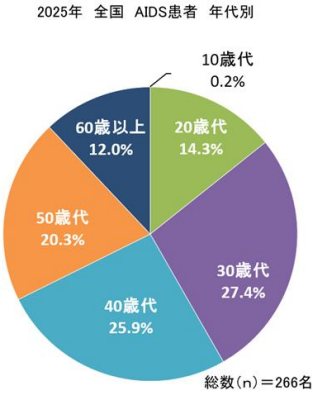
#### ・全国

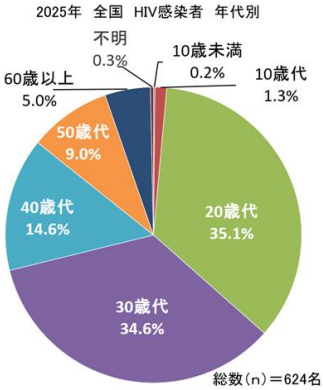
エイズ発生動向年報によると、2025 年の新規報告数における HIV 感染者は 624 名（前年 662 名）、エイズ患者は 266 名（前年 332 名）といずれも前年から減少しました。一方で、新規報告数全体に占めるエイズ患者の割合は 29.9%と依然として約 3 割で推移しています。

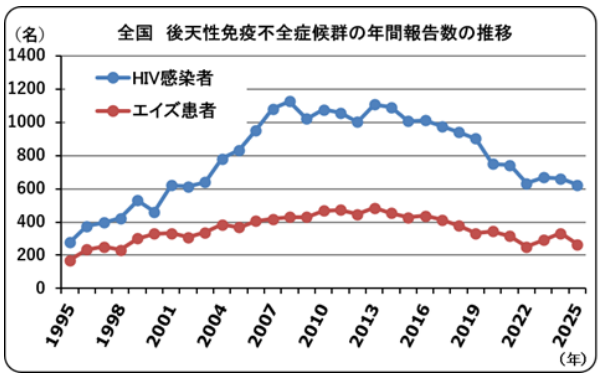
保健所等での検査件数の伸びが停滞している（2025 年 107,083 件、前年 108,988 件）ことに加え、新型コロナウイルス感染症の流行等により、保健所等での HIV 検査件数が減少していたことによって、無症状感染者が十分に診断を受けていなかった可能性に留意しつつ今後の状況を注視していく必要があります。

年代別では、HIV　感染者は 20～30 代で多くなっています。またエイズ患者は、20　代以上の各年代に分散していますが、特に 30～50　代で多く、HIV　感染者よりも年代が高くなっています。




厚生労働省エイズ動向委員会 令和 7(2025)年 エイズ発生動向データより作成

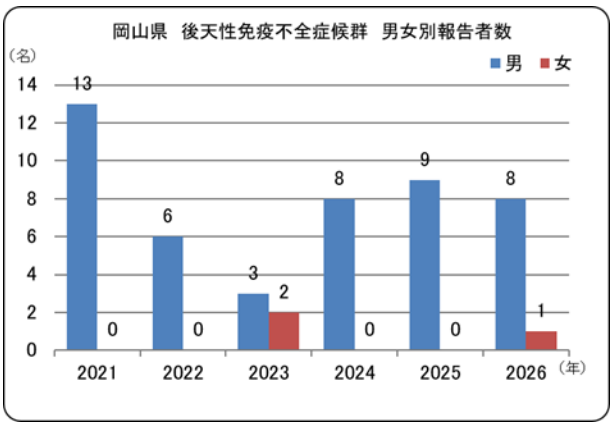
国籍・性別別では、HIV 感染者の 72.3%、エイズ患者の 75.9%が日本国籍男性となっています。エイズ患者における外国国籍男性の割合は 17.3%で、前年（17.8%）から横ばいとなっています。一方で、HIV 感染者における外国国籍男性の割合は 23.2%と前年（15.9%）から増加し、過去最多の報告数となっており、今後の状況を注視していく必要があります。

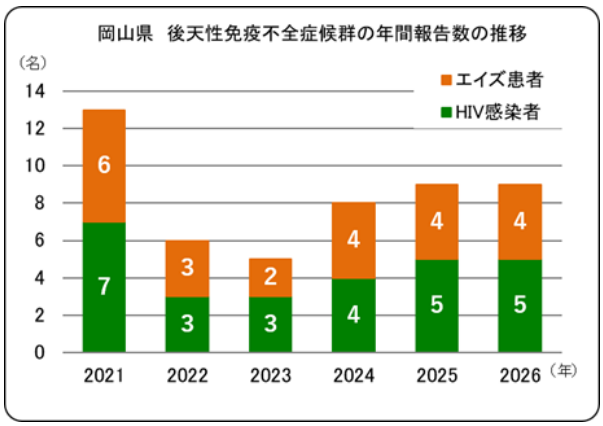
HIV 感染者およびエイズ患者の感染経路は、性的接触によるものが約 77.1%で、HIV 感染者の 64.7%、エイズ患者の 52.3%が同性間性的接触と報告され、男性の同性間性的接触に多い傾向が継続しています。なお、母子感染によるものは 1 件でした。

都道府県別でみると、2025 年 HIV 感染者（人口 10 万人あたり）は、東京都（1.48 人）、大阪府（0.97 人）、徳島県（0.58 人）の順で多くなっています（岡山県は 0.27 人）。また、エイズ患者（人口 10 万人あたり）は、徳島県（0.58 人）、沖縄県（0.55 人）、熊本県（0.47 人）の順で多くなっています（岡山県は 0.22 人）。

**・岡山県**

2026 年第 47 週まで（～11/22）に新たに報告された HIV 感染者は 5 名、エイズ患者は 4 名で、両者を合わせた報告数は 9 名となっています。



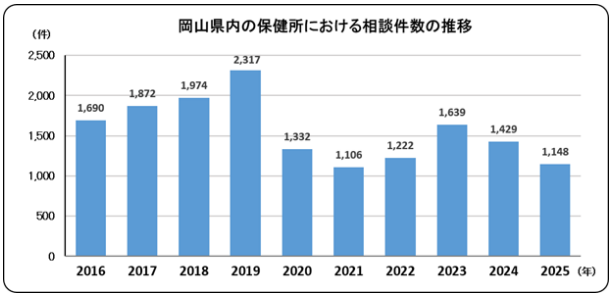



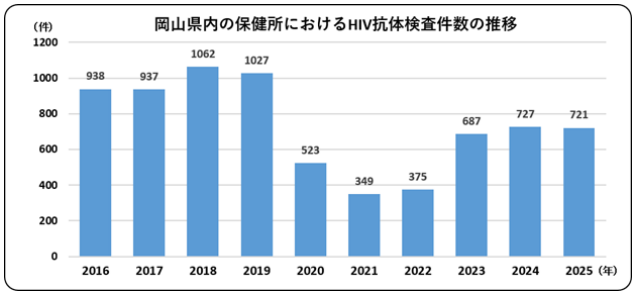

厚生労働省エイズ動向委員会　令和 7(2025)年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から 2026 年(11 月 22 日まで)のデータを追加して作成

**【岡山県内における HIV 抗体検査・相談件数】**

岡山県内の保健所における相談件数は、2024 年から 2 年連続で減少しています。全国的にも同様に 2 年連続で減少しています。

また、保健所および拠点病院での HIV 検査数（人口 10 万人あたり）については、2025 年は前年から横ばいで推移しており、新型コロナウイルス感染症流行以前の 2019 年と比較すると低い水準となっています。全国的にも同様に前年からほぼ横ばいで推移しています。






# 2026年12月1日　世界エイズデー

## 『あなたの話を聞かせてください』（「世界エイズデー」キャンペーンテーマ）



**レッドリボン**
エイズに対する理解と支援の象徴

世界エイズデーは、世界的なエイズのまん延防止と、患者・感染者に対する差別や偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年、12月1日を「世界エイズデー」と定め、啓発活動を提唱したものです。毎年この日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

近年、HIV治療の進歩により、早期診断・早期治療を受ければ、感染後も長期間にわたり社会の一員として生活することが可能となっています。一方、HIVに関する不安や悩み、検査・治療へのためらい、患者・感染者への差別や偏見は、今も社会に残っています。正しい知識を広めるだけでなく、不安に寄り添い、必要なときに話を聞く人や相談先があることは、検査や受診など適切な行動を支えるうえで大切です。

今年度のキャンペーンテーマ「あなたの話を聞かせてください」には、対話と共感を通じてHIVとエイズへの理解を深め、検査・相談の促進や差別・偏見のない社会の実現につなげたいという思いが込められています。また、誰かに話すことを求めるのではなく、話したいと思ったときにその声を受け止める環境の大切さを伝えるメッセージも込められています。

API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ

## 12月1日の世界エイズデーにあわせて、岡山県内の保健所・支所では、日時を拡大して検査を実施します。

保健所検査を受けるときは？（岡山県疾病感染症対策課）

世界エイズデー関連　夜間・特例及び休日検査一覧

※必ず**事前に電話予約**をしてください。

岡山県では、平成25年度から全県を挙げて、**HIV感染防止と「いきなりエイズ※」防止**のため、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱とした「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。

知って防ごう！性感染症とHIV（岡山県疾病感染症対策課）

※「いきなりエイズ」とは、エイズ発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。
治療の遅れはもとより予期せぬ感染の広がりにつながる可能性もあります。

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ検査（一部、梅毒なども含む）・性感染症相談は、以下のリンクから詳細をご覧ください。

岡山県保健所・支所　　岡山市保健所　　倉敷市保健所

○エイズ治療拠点病院のHIV検査（**要予約**、電話相談は行っていません）は、以下のリンクから詳細をご覧ください。

医療機関で検査を受けるときは？

## HIV 検査について

HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないと分かりません。HIV に感染してからエイズ発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。

HIV は、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬を続けることで、エイズの発症を防ぐことができます。

早期発見・早期治療がエイズ発症防止や HIV 感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円・即日検査）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

もし HIV 検査で感染していることが分かった場合でも、県内 9 か所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

なお、岡山県では、今年度新たに郵送検査を開始し、さらなる検査機会の拡大に努めています。検査等の詳細はこちらをご覧ください。

→【知って防ごう！性感染症とエイズ（HIV）】 【郵送検査を受けるときは？】

### 岡山県内での HIV 検査

| | 検査法 | 結果時期 | 正しい検査結果が得られる時期 | 料金 | 予約 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 保健所 | 血液検査 | 【通常検査の場合】<br>・約1 週間後<br><br>【即日検査の場合】<br>・陰性⇒約1 時間後（簡易迅速検査による）<br>・陽性⇒1 週間後（確認のため）<br><br>＊HIV即日検査を実施している保健所<br>（岡山市保健所・倉敷市保健所・備前保健所・美作保健所） | 感染が疑われる機会があってから3 か月経過後 | 無料 | 必須 | 匿名<br>梅毒などの性感染症検査も同時に受けられる<br><br>梅毒即日検査を実施している保健所<br>（岡山市保健所・倉敷市保健所・備前保健所・美作保健所） |
| | | 【郵送検査の場合】<br>・検査会社に検体が到着後、3日程度 | 感染が疑われる機会があってから少なくとも1か月以上経過後 | 無料 | ※ | 匿名<br>梅毒と同時受検<br>※専用サイトから申込 |
| 拠点病院 | | 即日<br>（1～2時間後） | 感染が疑われる機会があってから8 週間目以降 | 1,000 円 | 必須 | 匿名では受けられない |

**重要！**

**HIV など、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください ！**

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果 HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV など、性感染症の検査は、保健所または医療機関で受けてください。

## 梅毒 の検査も受けましょう！

近年、全国的に梅毒の患者が増えており、岡山県においても、人口 100 万人当たりの感染者数が全国4位と多い状況であることから、梅毒についても郵送検査と保健所における即日検査を行っています。

詳細はこちらをご覧ください

→保健所検査を受けるときは？

→郵送検査を受けるときは？



岡山県公式
バーチャルインフルエンサー
御瀬（みせ） 桃音（ももね）

# ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）※、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがいます。



吸血後の
フタトゲチマダニ♀

ダニは、春から秋（3 月～11 月）にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤（マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの）を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科　撮影画像

**※SFTS は SFTS ウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。**
**体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。**

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ 日本紅斑熱　（国立健康危機管理研究機構）

⇒ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A　（厚生労働省）

⇒ つつが虫病（国立健康危機管理研究機構）

⇒ マダニ対策、今できること　（国立健康危機管理研究機構）

2026 年 11 月 27 日

# インフルエンザ週報　2026 年 第 47 週（11 月 16 日 ～ 11 月 22 日）

**岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です**

岡山県の流行状況

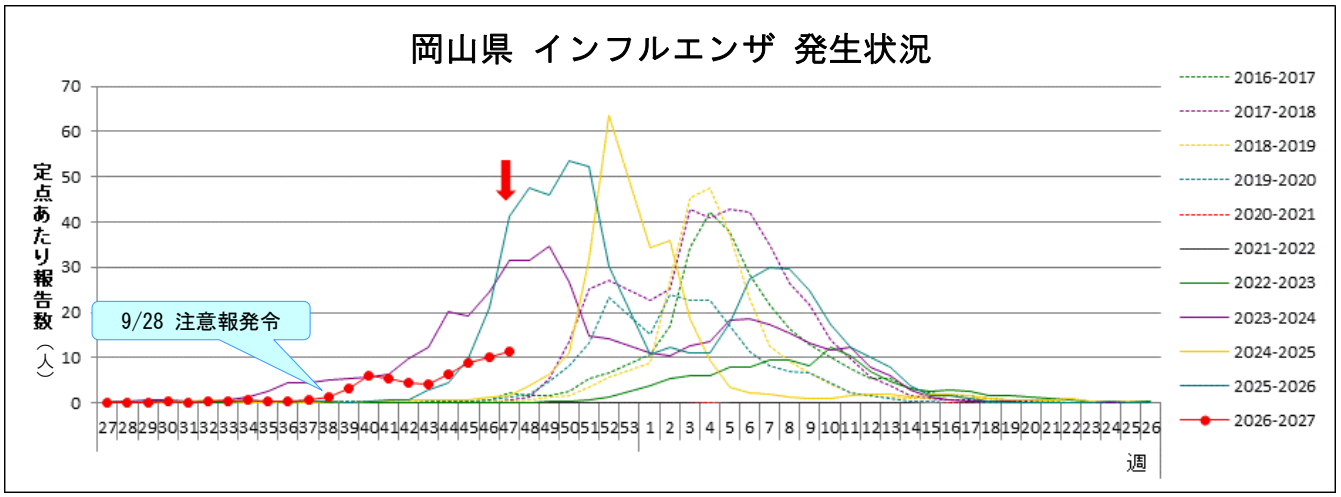
○インフルエンザは、県全体で 569 名（定点あたり 11.38 人）の報告がありました（50 定点医療機関報告）。

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、33 施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者 25 名の報告がありました。

【第 48 週　速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 17 施設でありました（11 月 23 日～25 日）。




※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

※ 2025 年第 15 週以降定点がインフルエンザ/COVID-19 定点（84 医療機関）から ARI 定点（50 医療機関）になりました。

インフルエンザは、県全体で 569 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 10.00 → 11.38 人）。

岡山県は 9 月 28 日に**「インフルエンザ注意報」**を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備中地域（15.60 人）、備北地域（15.00 人）、倉敷市（14.75 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

県内の発生状況に注意するとともに、基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

## ◆インフルエンザの流行拡大が懸念されます！感染に注意しましょう

【予防と対策】

〇基本的な感染防止対策

・場面に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施

・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入れ換え

・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける

〇健康的な日常生活

・十分な休養、バランスのとれた食事

〇あらかじめの備え

・早めのインフルエンザワクチン接種

【発熱等の症状が出た時は】

〇早めに医療機関を受診する

〇周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！

〇水分を十分にとり、安静にして休養をとる

⇒　詳細は岡山県ホームページ『インフルエンザ対策について』をご覧ください。

## 1. 地域別発生状況

| 地域名 | 発生状況（人） | | 推移 | 地域名 | 発生状況（人） | | 推移 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **岡山県全体** | **患 者 数** | **569** | ↗ | 備　中 | 患 者 数 | 78 | ↗ |
| | **定点あたり** | **11.38** | | | 定点あたり | 15.60 | |
| 岡山市 | 患 者 数 | 162 | ↘ | 備　北 | 患 者 数 | 60 | → |
| | 定点あたり | 9.00 | | | 定点あたり | 15.00 | |
| 倉敷市 | 患 者 数 | 177 | ↗ | 真　庭 | 患 者 数 | 24 | ↑ |
| | 定点あたり | 14.75 | | | 定点あたり | 12.00 | |
| 備　前 | 患 者 数 | 36 | ↑ | 美　作 | 患 者 数 | 32 | → |
| | 定点あたり | 9.00 | | | 定点あたり | 6.40 | |

【記号の説明】前週からの推移　↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↘：減少　↓：大幅な減少

大幅：前週比 100%以上の増減　　増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

### インフルエンザ感染症マップ

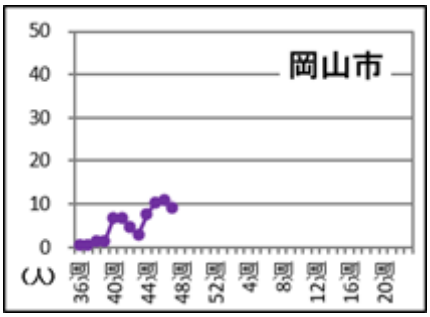


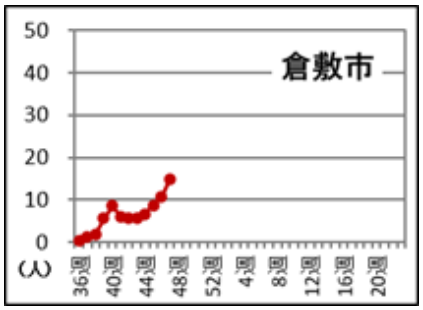

＜インフルエンザ発生レベル　基準＞

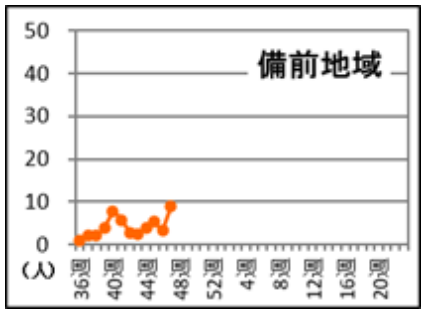
| レベル3 | | レベル2 |
|---|---|---|
| 開始基準値 | 終息基準値 | 基準値 |
| 30 | 10 | 10 以上<br>30 未満 |

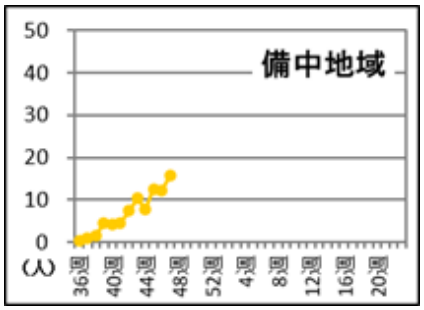
| レベル1 | 報告なし |
|---|---|
| 基準値 | 基準値 |
| 0＜<br>10 未満 | 0 |

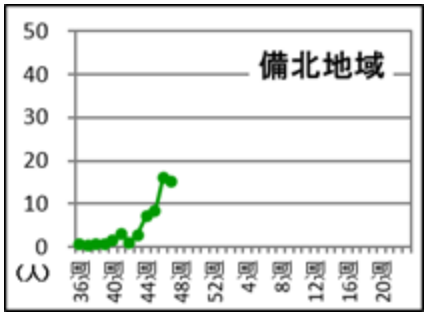
※数字は定点あたり報告数

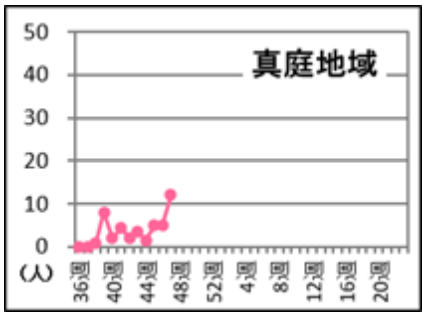


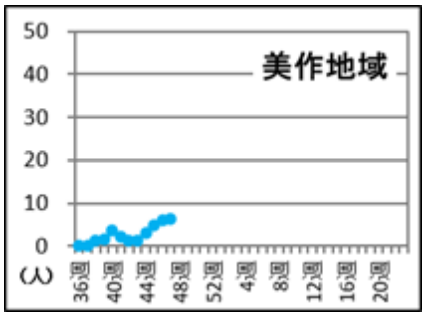



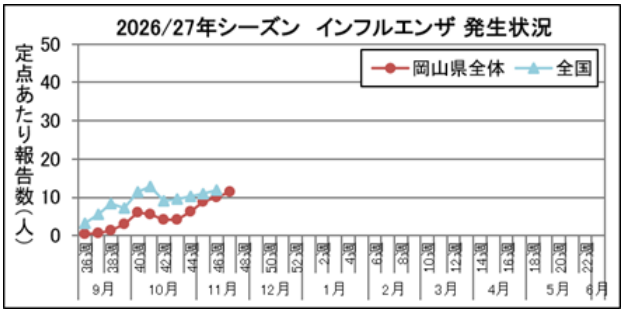



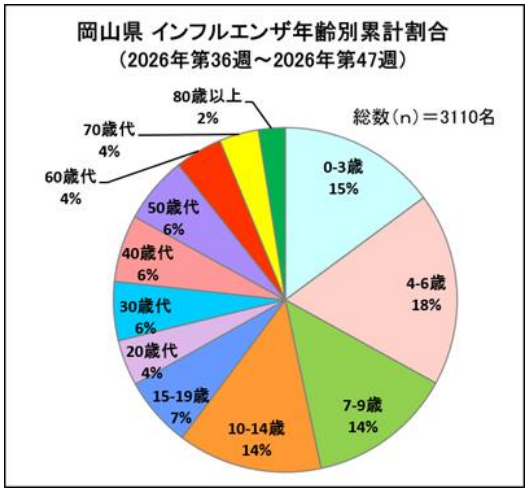



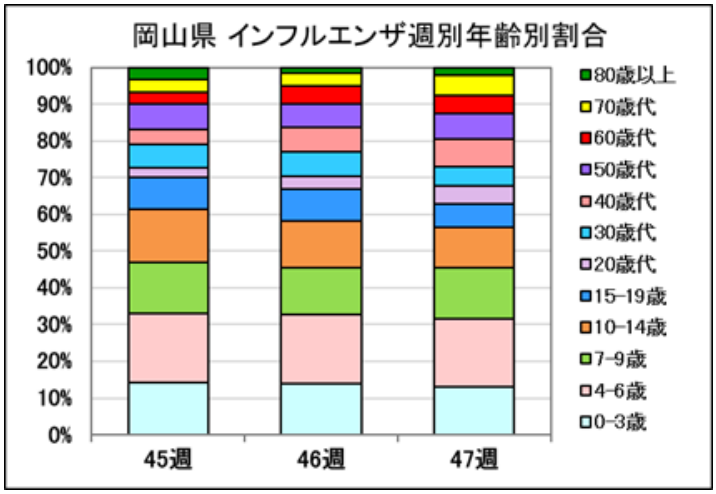

全国集計 2026 年第 46 週（11/9～11/15）速報値によると、全国の定点あたり報告数は、11.94 人となりました。

都道府県別では、北海道（30.63 人）、宮城県（24.20 人）、福島県（23.02 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。38 都道府県で前週の報告数から増加しました。

インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）

## 2. 年齢別発生状況



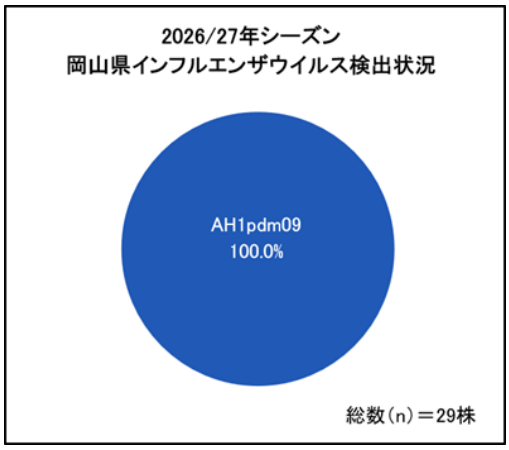



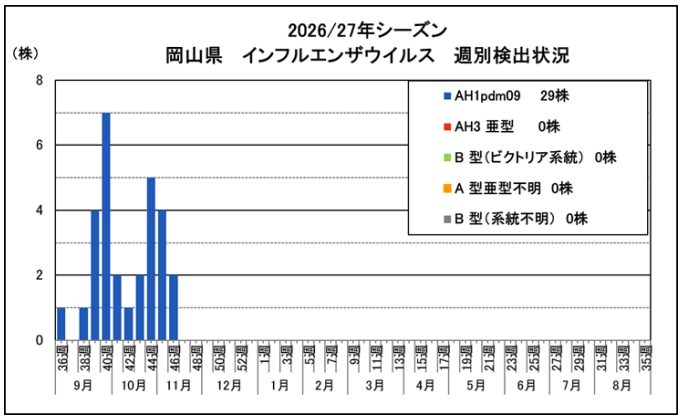

※定点医療機関は、小児科定点（28 医療機関）が内科定点（22 医療機関）に比べて多いため、報告数は小児に偏ります。

## 3. インフルエンザウイルス検出状況

【岡山県】

今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 29 株で、すべて AH1pdm09 となっています。

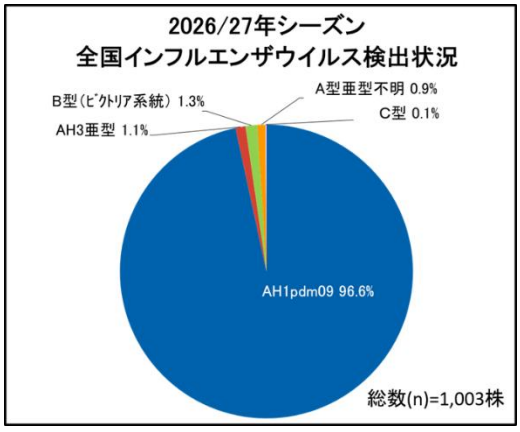


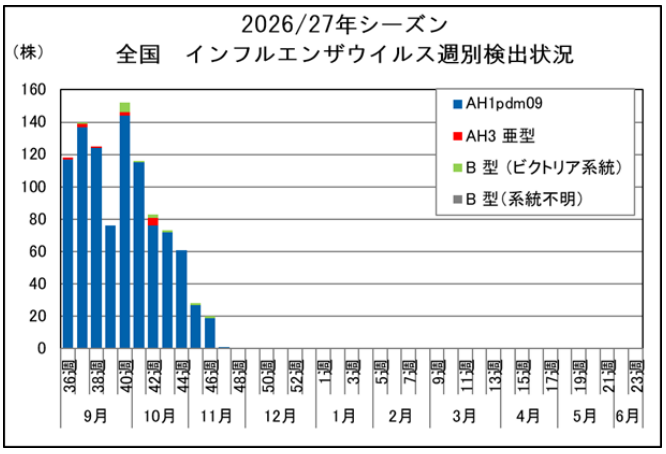




【全国】

今シーズン、これまでに検出されたインフルエンザウイルスは 1,003 株で、AH1pdm09 が 969 株、AH3 亜型が 11 株、B 型（ビクトリア系統）が 13 株、A 型亜型不明が 9 株、C 型が 1 株となっています（11 月 25 日現在）。

インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立健康危機管理研究機構）

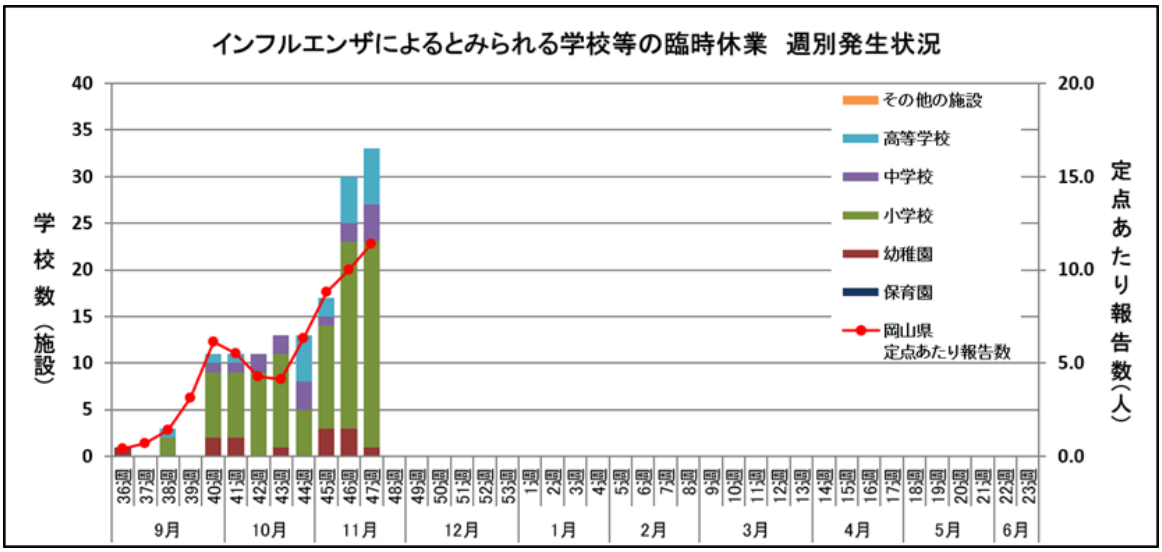



※集計が異なるため一部の型が報告されていません。

## 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、33 施設でありました。




臨時休業施設数の内訳

| | 保育園 | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第 47 週 | 0 | 1 | 22 | 4 | 6 | 0 | **33** |
| 累計 | 0 | 13 | 93 | 16 | 21 | 0 | **143** |

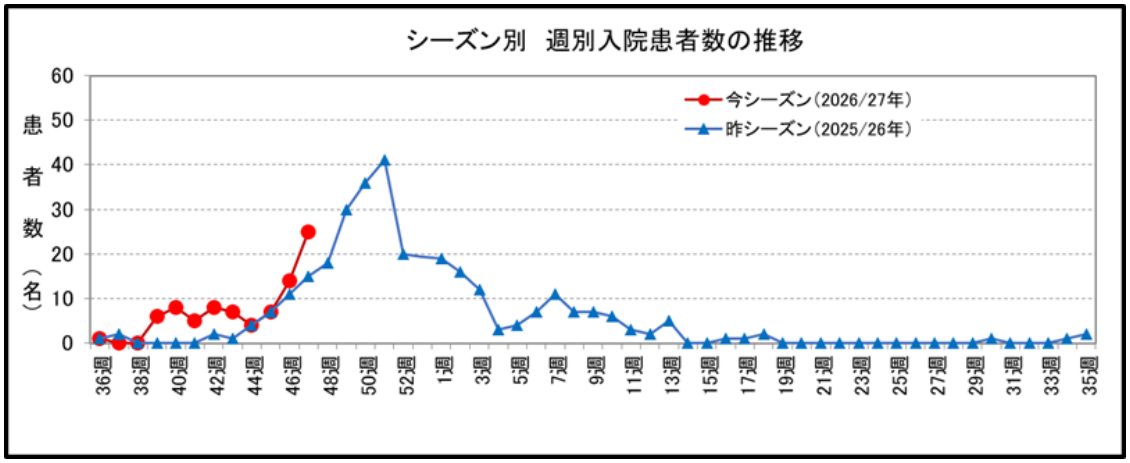
最新の臨時休業の情報については以下のホームページをご覧ください。

→　（R8 年度シーズン）岡山県内の学校等におけるインフルエンザとみられる臨時休業

## 5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者 25 名の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 47 週 入院患者報告数】

| 年齢 | 1 歳未満 | 1～4 歳 | 5～9 歳 | 10～14 歳 | 15～19 歳 | 20～29 歳 | 30～39 歳 | 40～49 歳 | 50～59 歳 | 60～69 歳 | 70～79 歳 | 80 歳以上 | 計＊ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **入院患者数** | | **2** | **1** | **2** | | **1** | **1** | | **1** | **3** | **6** | **8** | **25** |
| ICU 入室 ＊ | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 人工呼吸器の利用 ＊ | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | | 4 |
| 頭部 CT 検査(予定含)＊ | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | | | 4 |
| 頭部 MRI 検査(予定含)＊ | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 脳波検査（予定含)＊ | | | | | | | | | | | | | |
| いずれにも該当せず | | 2 | 1 | 2 | | | | | | 1 | 4 | 8 | 18 |

＊ 重複あり

【2026 年 8 月 31 日（第 36 週）以降に入院した患者の累計数】

| 年齢 | 1 歳未満 | 1～4 歳 | 5～9 歳 | 10～14 歳 | 15～19 歳 | 20～29 歳 | 30～39 歳 | 40～49 歳 | 50～59 歳 | 60～69 歳 | 70～79 歳 | 80 歳以上 | 計＊ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **入院患者数** | **3** | **11** | **13** | **4** | | **2** | **1** | **1** | **5** | **8** | **14** | **23** | **85** |
| ICU 入室 ＊ | | 2 | 1 | | | | | | | | 1 | | 4 |
| 人工呼吸器の利用 ＊ | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | | 2 | 1 | 7 |
| 頭部 CT 検査(予定含)＊ | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 8 |
| 頭部 MRI 検査(予定含)＊ | | | 2 | | | | | 1 | | 1 | | 1 | 5 |
| 脳波検査（予定含)＊ | | 1 | | | | | | 1 | | | | | 2 |
| いずれにも該当せず | 3 | 9 | 10 | 4 | | 1 | | | 3 | 6 | 11 | 20 | 67 |

＊ 重複あり

令和８年度 急性呼吸器感染症（ARI）総合対策に関するQ&A（厚生労働省）
令和８年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策（厚生労働省）

## 保健所別報告患者数　2026年 第47週（定点把握）　（ 2026/11/16～2026/11/22 ）　2026年11月26日

| 疾病名 | 全県 | | 岡山市 | | 倉敷市 | | 備前 | | 備中 | | 備北 | | 真庭 | | 美作 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 |
| インフルエンザ | 569 | 11.38 | 162 | 9.00 | 177 | 14.75 | 36 | 9.00 | 78 | 15.60 | 60 | 15.00 | 24 | 12.00 | 32 | 6.40 |
| COVID-19 | 27 | 0.54 | 7 | 0.39 | 7 | 0.58 | 4 | 1.00 | 3 | 0.60 | 4 | 1.00 | – | – | 2 | 0.40 |
| 急性呼吸器感染症 | 3722 | 74.44 | 1475 | 81.94 | 850 | 70.83 | 256 | 64.00 | 664 | 132.80 | 247 | 61.75 | 72 | 36.00 | 158 | 31.60 |
| RSウイルス感染症 | 32 | 1.14 | 10 | 1.00 | 19 | 2.71 | – | – | 1 | 0.33 | – | – | – | – | 2 | 0.67 |
| 咽頭結膜熱 | 3 | 0.11 | – | – | – | – | – | – | 2 | 0.67 | – | – | – | – | 1 | 0.33 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 82 | 2.93 | 46 | 4.60 | 22 | 3.14 | 4 | 2.00 | 7 | 2.33 | – | – | 1 | 1.00 | 2 | 0.67 |
| 感染性胃腸炎 | 66 | 2.36 | 36 | 3.60 | 8 | 1.14 | 5 | 2.50 | 4 | 1.33 | 6 | 3.00 | – | – | 7 | 2.33 |
| 水痘 | 8 | 0.29 | 5 | 0.50 | 2 | 0.29 | – | – | 1 | 0.33 | – | – | – | – | – | – |
| 手足口病 | 5 | 0.18 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | 4 | 4.00 | 1 | 0.33 |
| 伝染性紅斑 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 突発性発しん | 13 | 0.46 | 7 | 0.70 | 3 | 0.43 | – | – | 1 | 0.33 | 1 | 0.50 | 1 | 1.00 | – | – |
| ヘルパンギーナ | 7 | 0.25 | 3 | 0.30 | 3 | 0.43 | – | – | 1 | 0.33 | – | – | – | – | – | – |
| 流行性耳下腺炎 | 1 | 0.04 | 1 | 0.10 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 急性出血性結膜炎 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | | | | | – | – |
| 流行性角結膜炎 | 4 | 0.33 | – | – | 1 | 0.25 | 2 | 2.00 | 1 | 1.00 | | | | | – | – |
| 細菌性髄膜炎 | – | – | – | – | – | – | | | | | – | – | – | – | – | – |
| 無菌性髄膜炎 | – | – | – | – | – | – | | | | | – | – | – | – | – | – |
| マイコプラズマ肺炎 | 2 | 0.40 | – | – | 2 | 2.00 | | | | | – | – | – | – | – | – |
| クラミジア肺炎 | – | – | – | – | – | – | | | | | – | – | – | – | – | – |
| 感染性胃腸炎（ロタウイルス） | – | – | – | – | – | – | | | | | – | – | – | – | – | – |

（ – ： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

# 感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2026年　第47週　 2026/11/16～2026/11/22 ）

| 疾病名 | 合計 | -6ヶ月 | -12ヶ月 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10-14 | 15-19 | 20-29 | 30-39 | 40-49 | 50-59 | 60-69 | 70-79 | 80～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| インフルエンザ | 569 | 5 | 3 | 18 | 21 | 28 | 33 | 34 | 37 | 31 | 23 | 26 | 63 | 35 | 29 | 29 | 43 | 40 | 27 | 32 | 12 |
| COVID-19 | 27 | 1 | – | – | 1 | – | 1 | 2 | – | – | – | – | 1 | – | 2 | 2 | – | 4 | 4 | 1 | 8 |

| 疾病名 | 合計 | 0歳 | 1-4 | 5-9 | 10-14 | 15-19 | 20-29 | 30-39 | 40-49 | 50-59 | 60-69 | 70-79 | 80～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 急性呼吸器感染症 | 3722 | 244 | 1384 | 832 | 400 | 139 | 90 | 142 | 121 | 109 | 98 | 88 | 75 |

| 疾病名 | 合計 | -6ヶ月 | -12ヶ月 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10-14 | 15-19 | 20～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RSウイルス感染症 | 32 | 2 | 1 | 15 | 5 | 7 | 2 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 咽頭結膜熱 | 3 | – | – | 1 | – | – | – | – | – | – | – | 1 | 1 | – | – |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 82 | – | 1 | 4 | 2 | 13 | 11 | 7 | 11 | 7 | 6 | 7 | 10 | – | 3 |
| 感染性胃腸炎 | 66 | 3 | 8 | 12 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 2 | 3 | 2 | 6 | 2 | 7 |
| 水痘 | 8 | – | 1 | 1 | – | – | – | 1 | – | – | – | 1 | 3 | 1 | – |
| 手足口病 | 5 | 1 | – | 1 | 1 | – | 1 | – | – | 1 | – | – | – | – | – |
| 伝染性紅斑 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 突発性発しん | 13 | – | 3 | 8 | 1 | 1 | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ヘルパンギーナ | 7 | – | – | 3 | 3 | – | – | – | 1 | – | – | – | – | – | – |
| 流行性耳下腺炎 | 1 | – | – | – | – | 1 | – | – | – | – | – | – | – | – | – |

| 疾病名 | 合計 | -6ヶ月 | -12ヶ月 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10-14 | 15-19 | 20-29 | 30-39 | 40-49 | 50-59 | 60-69 | 70～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 急性出血性結膜炎 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 流行性角結膜炎 | 4 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | 1 | – | – | 3 | – | – | – | – |

| 疾病名 | 合計 | 0歳 | 1-4 | 5-9 | 10-14 | 15-19 | 20-24 | 25-29 | 30-34 | 35-39 | 40-44 | 45-49 | 50-54 | 55-59 | 60-64 | 65-69 | 70～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 細菌性髄膜炎 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 無菌性髄膜炎 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| マイコプラズマ肺炎 | 2 | – | – | – | 2 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| クラミジア肺炎 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |

（－： 0 ）

## 保健所別報告患者数　2026年 第47週（発生レベル設定疾患）　（ 2026/11/16～2026/11/22 ）　2026年11月26日

| 疾病名 | 全県 | | 岡山市 | | 倉敷市 | | 備前 | | 備中 | | 備北 | | 真庭 | | 美作 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 | 報告数 | 定点当 |
| インフルエンザ | 569 | 11.38 | 162 | 9.00 | 177 | 14.75 | 36 | 9.00 | 78 | 15.60 | 60 | 15.00 | 24 | 12.00 | 32 | 6.40 |
| 咽頭結膜熱 | 3 | 0.11 | – | – | – | – | – | – | 2 | 0.67 | – | – | – | – | 1 | 0.33 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 82 | 2.93 | 46 | 4.60 | 22 | 3.14 | 4 | 2.00 | 7 | 2.33 | – | – | 1 | 1.00 | 2 | 0.67 |
| 感染性胃腸炎 | 66 | 2.36 | 36 | 3.60 | 8 | 1.14 | 5 | 2.50 | 4 | 1.33 | 6 | 3.00 | – | – | 7 | 2.33 |
| 水痘 | 8 | 0.29 | 5 | 0.50 | 2 | 0.29 | – | – | 1 | 0.33 | – | – | – | – | – | – |
| 手足口病 | 5 | 0.18 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | 4 | 4.00 | 1 | 0.33 |
| 伝染性紅斑 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ヘルパンギーナ | 7 | 0.25 | 3 | 0.30 | 3 | 0.43 | – | – | 1 | 0.33 | – | – | – | – | – | – |
| 流行性耳下腺炎 | 1 | 0.04 | 1 | 0.10 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 急性出血性結膜炎 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | | | | | – | – |
| 流行性角結膜炎 | 4 | 0.33 | – | – | 1 | 0.25 | 2 | 2.00 | 1 | 1.00 | | | | | – | – |

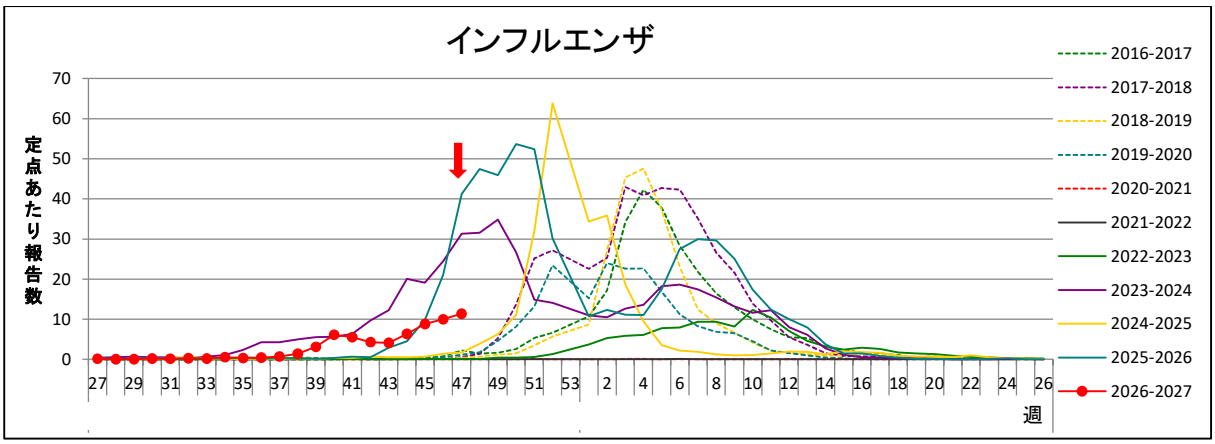
濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

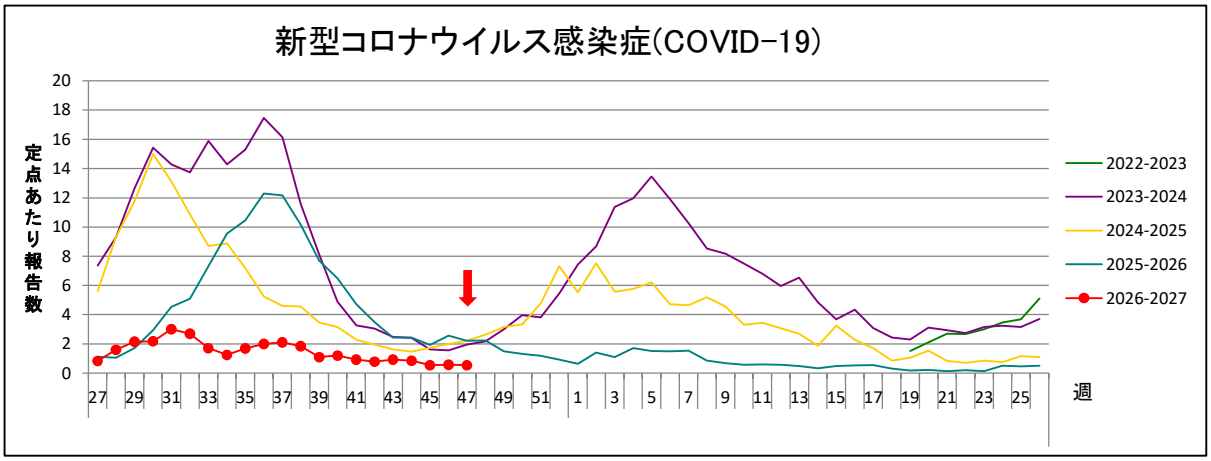
（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

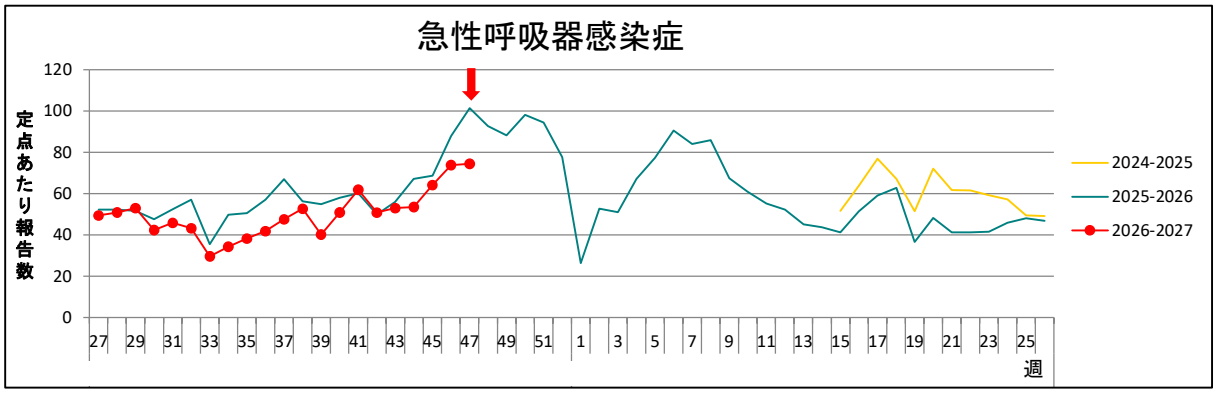
# 全数把握 感染症患者発生状況

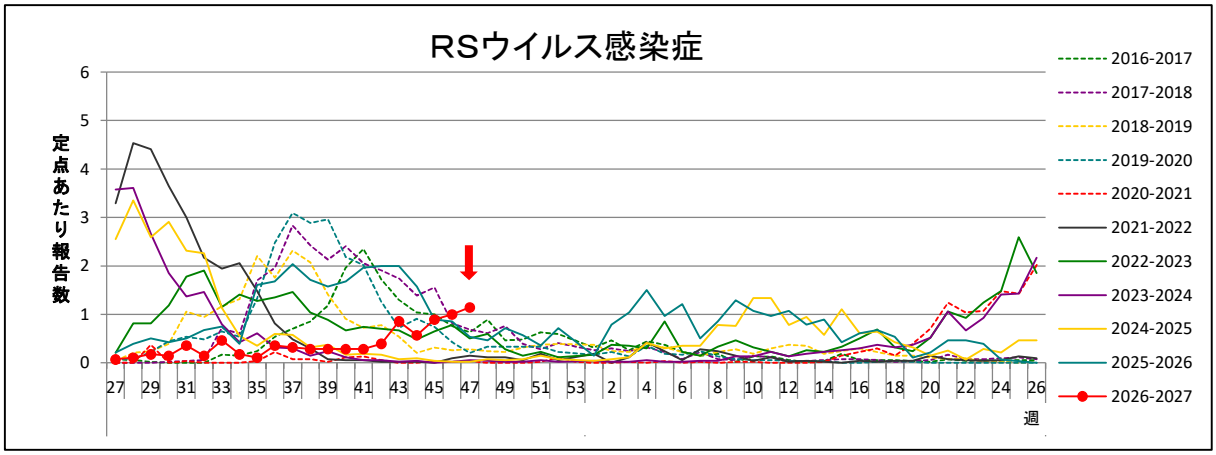
2026 年　第 47 週

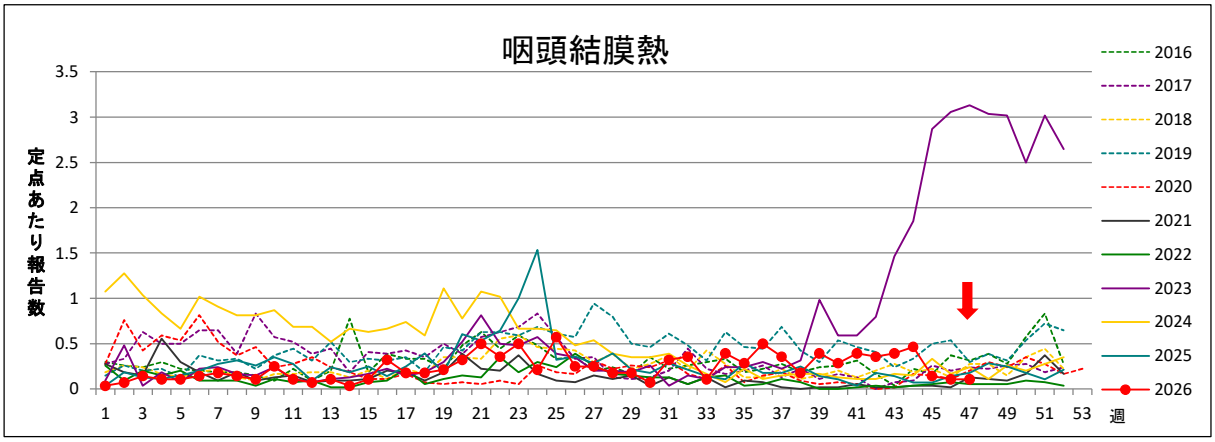
| 分類 | 疾病名 | 2026 今週 | 2026 累計 | 2025 昨年 | 疾病名 | 2026 今週 | 2026 累計 | 2025 昨年 | 疾病名 | 2026 今週 | 2026 累計 | 2025 昨年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一類 | エボラ出血熱 | – | – | – | クリミア・コンゴ出血熱 | – | – | – | 痘そう | – | – | – |
| | 南米出血熱 | – | – | – | ペスト | – | – | – | マールブルグ病 | – | – | – |
| | ラッサ熱 | – | – | – | | – | – | – | | – | – | – |
| 二類 | 急性灰白髄炎 | – | – | – | 結核 | 5 | 211 | 237 | ジフテリア | – | – | – |
| | 重症急性呼吸器症候群 | – | – | – | 中東呼吸器症候群 | – | – | – | 鳥インフルエンザ（H5N1） | – | – | – |
| | 鳥インフルエンザ（H7N9） | – | – | – | | – | – | – | | – | – | – |
| 三類 | コレラ | – | – | – | 細菌性赤痢 | – | – | – | 腸管出血性大腸菌感染症 | 3 | 101 | 95 |
| | 腸チフス | – | 2 | – | パラチフス | – | – | – | | – | – | – |
| 四類 | E型肝炎 | – | 4 | 4 | ウエストナイル熱 | – | – | – | A型肝炎 | – | 2 | 2 |
| | エキノコックス症 | – | – | – | エムポックス | – | 1 | – | 黄熱 | – | – | – |
| | オウム病 | – | – | – | オムスク出血熱 | – | – | – | 回帰熱 | – | – | – |
| | キャサヌル森林病 | – | – | – | Q熱 | – | – | – | 狂犬病 | – | – | – |
| | コクシジオイデス症 | – | – | – | ジカウイルス感染症 | – | – | – | 重症熱性血小板減少症候群 | – | 3 | 8 |
| | 腎症候性出血熱 | – | – | – | 西部ウマ脳炎 | – | – | – | ダニ媒介脳炎 | – | – | – |
| | 炭疽 | – | – | – | チクングニア熱 | – | – | – | つつが虫病 | – | – | – |
| | デング熱 | – | – | 1 | 東部ウマ脳炎 | – | – | – | 鳥インフルエンザ | – | – | – |
| | ニパウイルス感染症 | – | – | – | 日本脳炎 | – | – | – | 日本紅斑熱 | – | 15 | 19 |
| | ハンタウイルス肺症候群 | – | – | – | Bウイルス病 | – | – | – | 鼻疽 | – | – | – |
| | ブルセラ症 | – | – | – | ベネズエラウマ脳炎 | – | – | – | ヘンドラウイルス感染症 | – | – | – |
| | 発しんチフス | – | – | – | ボツリヌス症 | – | – | – | マラリア | – | – | – |
| | 野兎病 | – | – | – | ライム病 | – | – | – | リッサウイルス感染症 | – | – | – |
| | リフトバレー熱 | – | – | – | 類鼻疽 | – | – | – | レジオネラ症 | 1 | 52 | 58 |
| | レプトスピラ症 | – | 2 | 1 | ロッキー山紅斑熱 | – | – | – | | – | – | – |
| 五類 | アメーバ赤痢 | – | 8 | 8 | ウイルス性肝炎 | – | 1 | 2 | カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 | – | 11 | 20 |
| | 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。） | – | – | 2 | 急性脳炎 | – | 12 | 14 | クリプトスポリジウム症 | – | – | – |
| | クロイツフェルト・ヤコブ病 | – | 1 | 1 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | – | 13 | 21 | 後天性免疫不全症候群 | 1 | 9 | 9 |
| | ジアルジア症 | – | – | – | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | – | 10 | 9 | 侵襲性髄膜炎菌感染症 | – | – | 1 |
| | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 1 | 48 | 55 | 水痘（入院例に限る。） | – | 15 | 6 | 先天性風しん症候群 | – | – | – |
| | 多剤耐性緑膿菌感染症 | – | 1 | – | 梅毒 | 1 | 147 | 253 | 播種性クリプトコックス症 | – | 1 | 3 |
| | 破傷風 | – | 2 | – | バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | – | – | – | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 | – | – | – |
| | 百日咳 | 1 | 100 | 2148 | 風しん | – | – | – | 麻しん | – | – | 5 |
| | 薬剤耐性アシネトバクター感染症 | – | – | – | | – | – | – | | – | – | – |

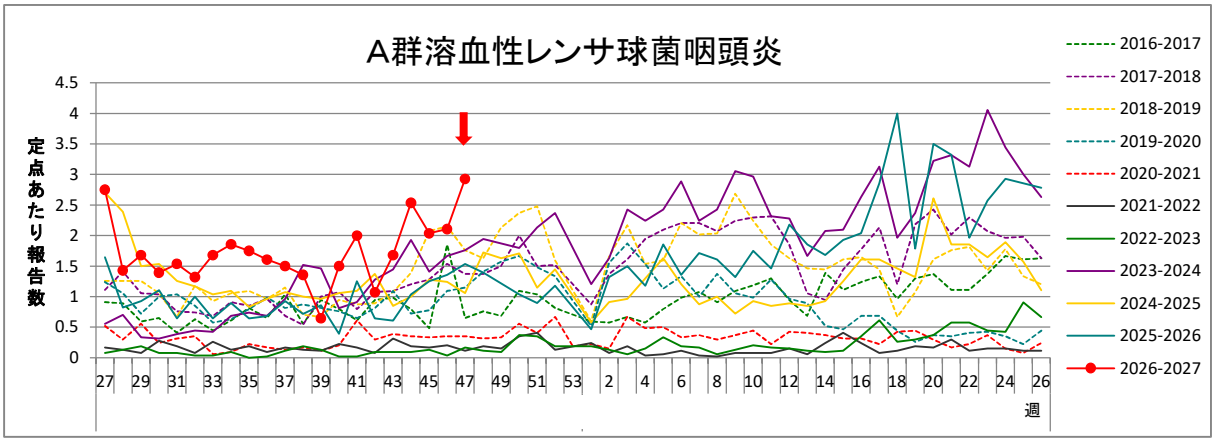

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

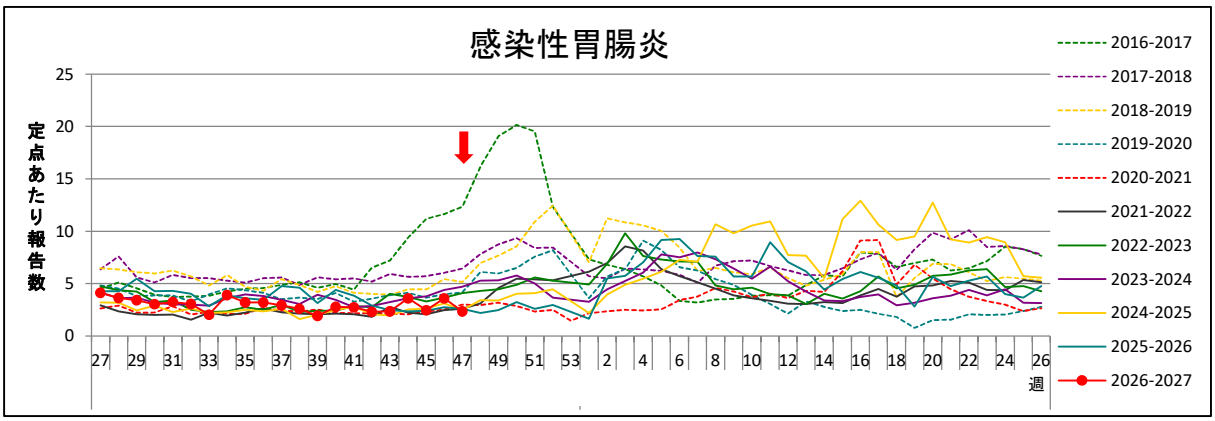

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)
定点あたり報告数
週
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

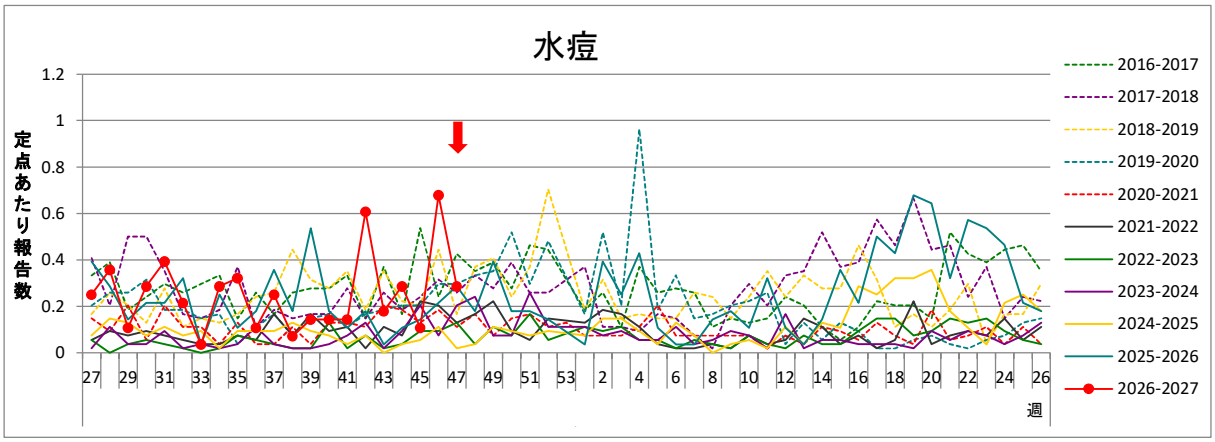

急性呼吸器感染症
定点あたり報告数
週
2024-2025
2025-2026
2026-2027

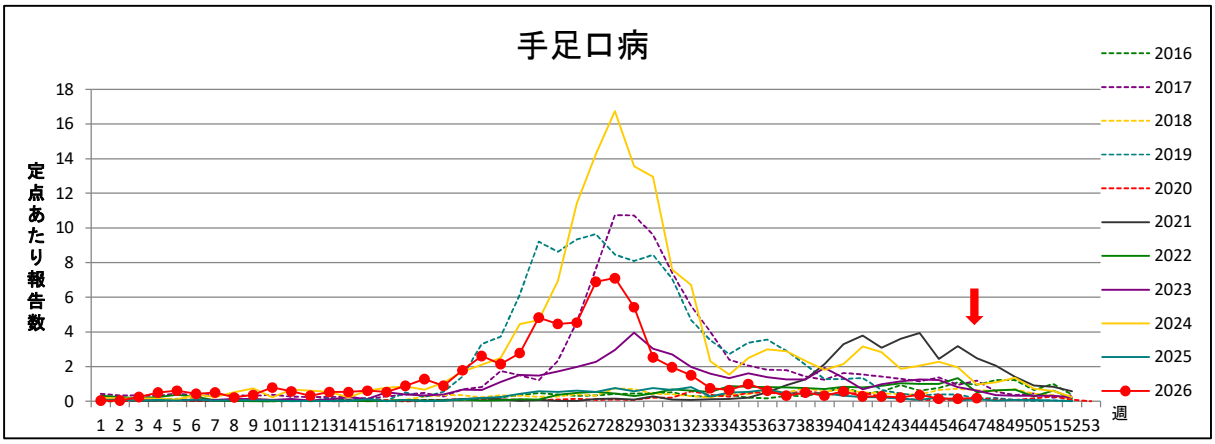

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

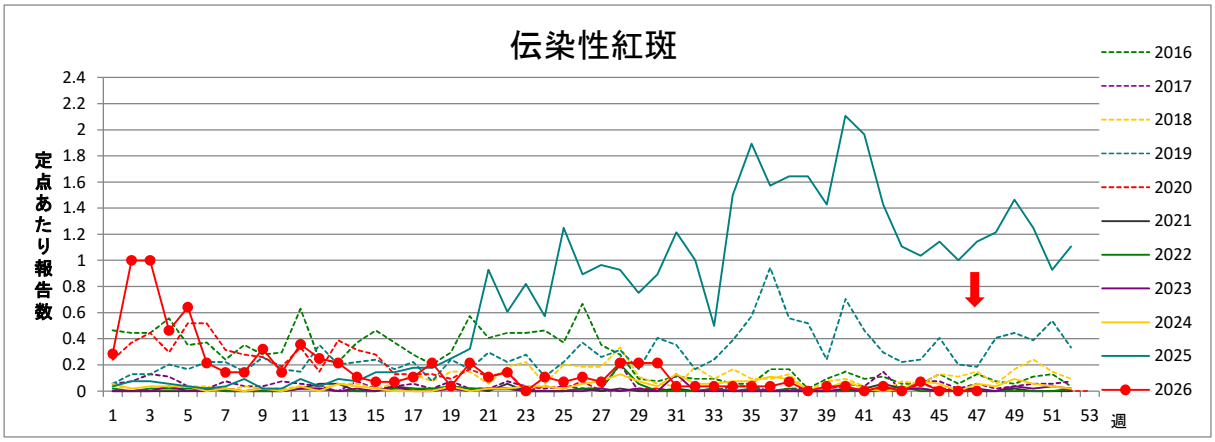

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

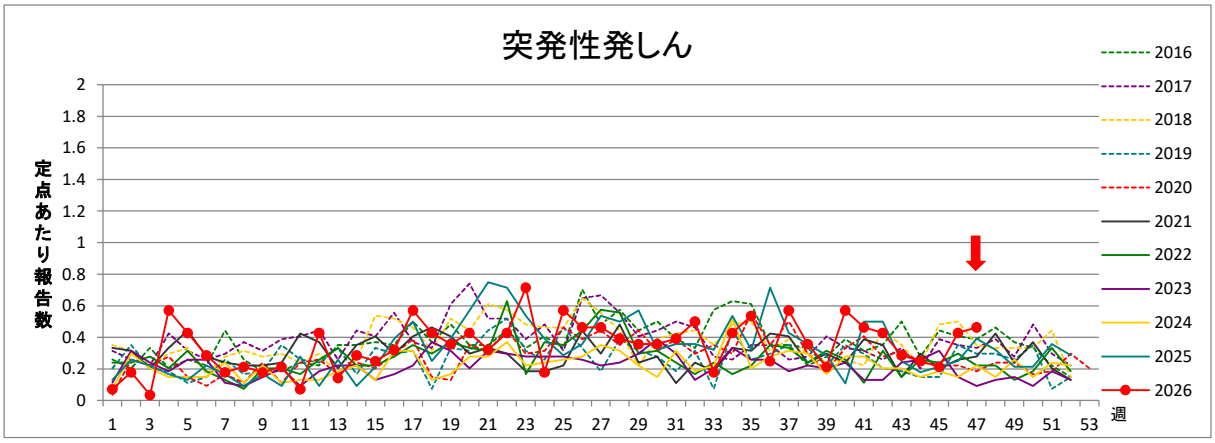

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
4.5
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

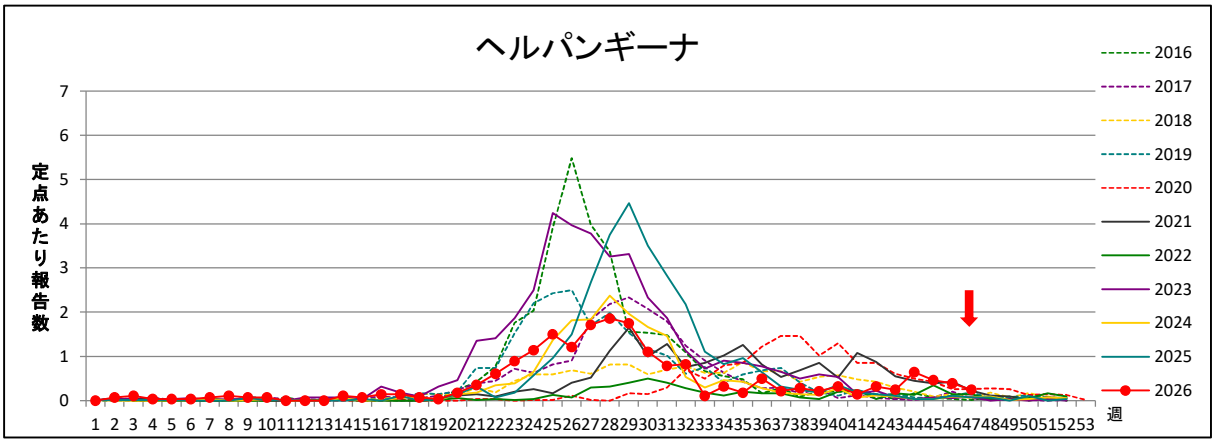

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
25
20
15
10
5
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

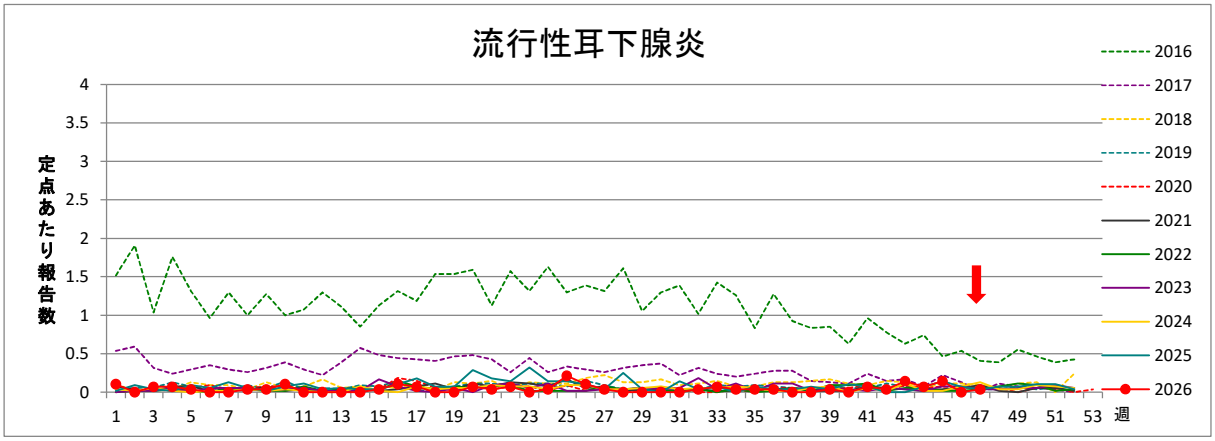

水痘
定点あたり報告数
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027

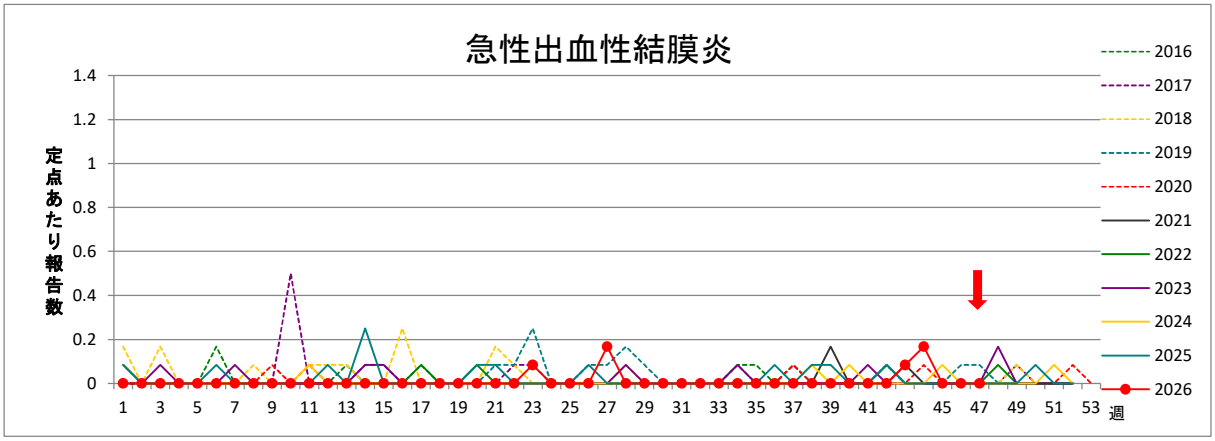

手足口病
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

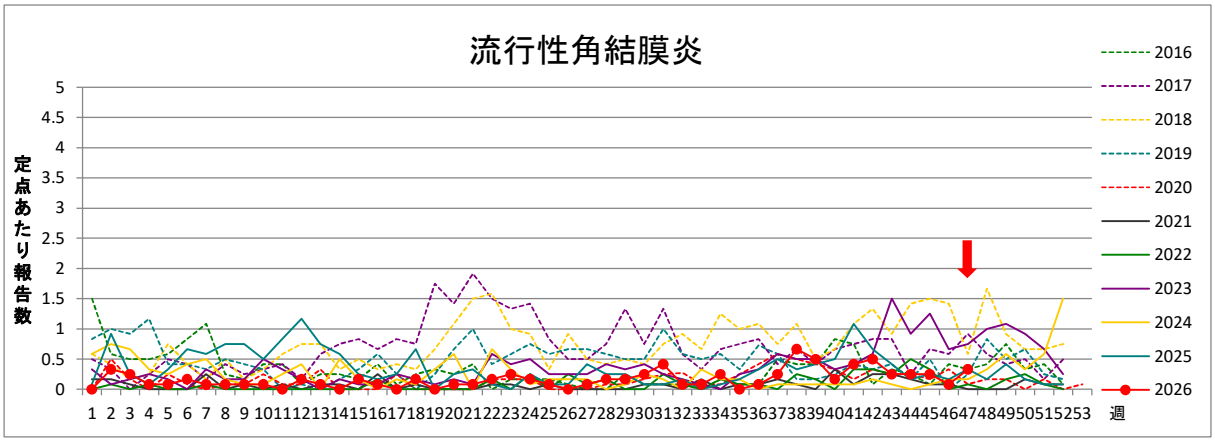

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

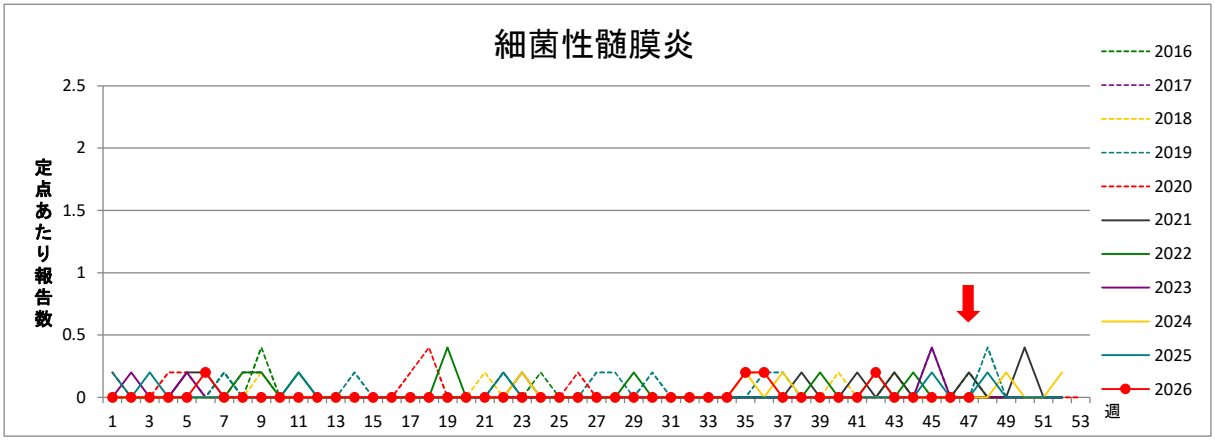

突発性発しん
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

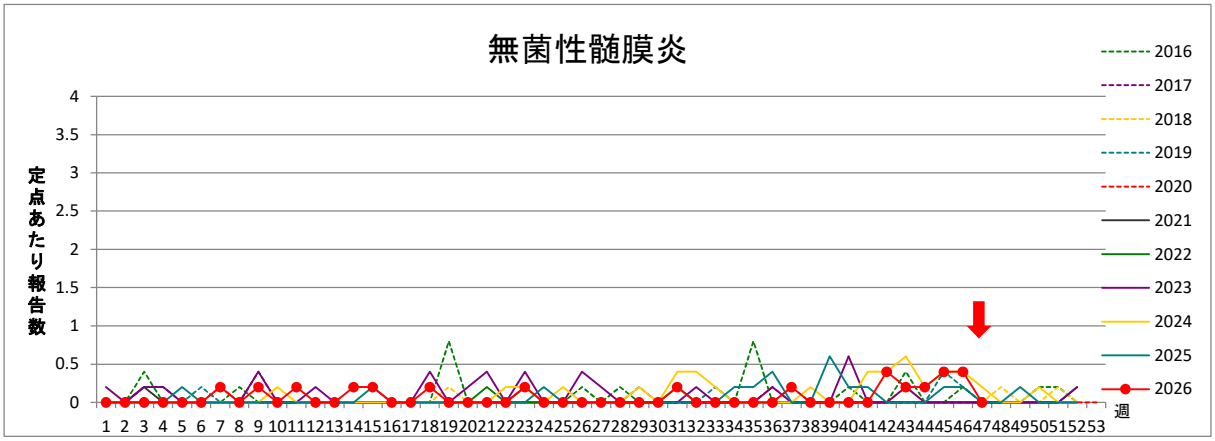

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

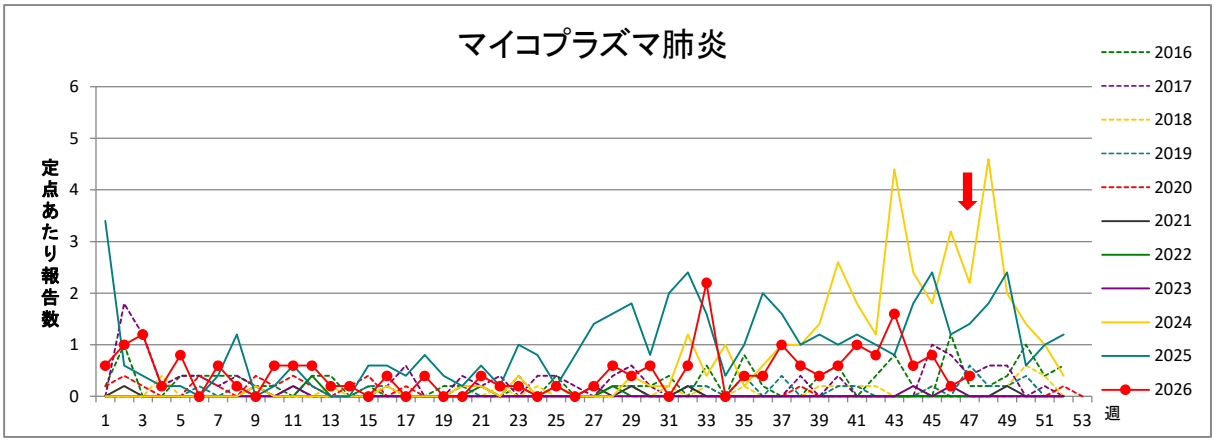

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

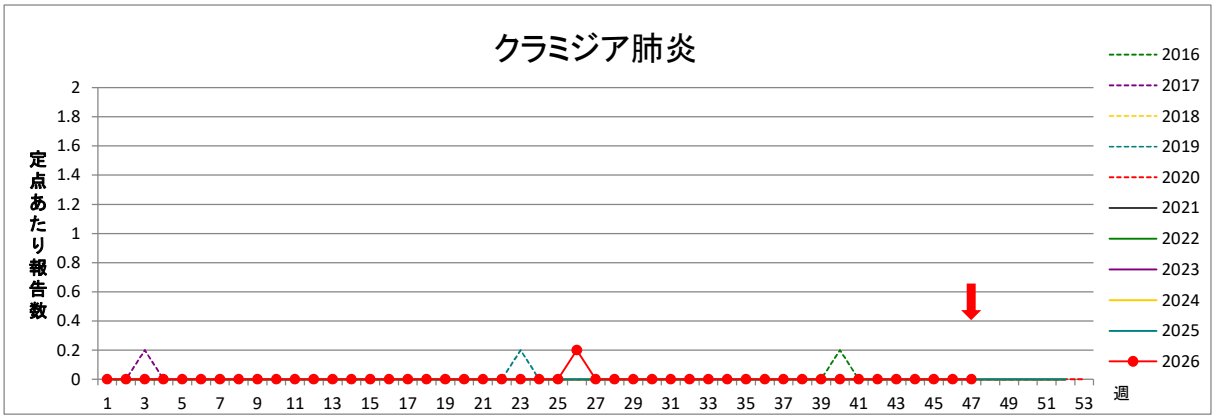

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026

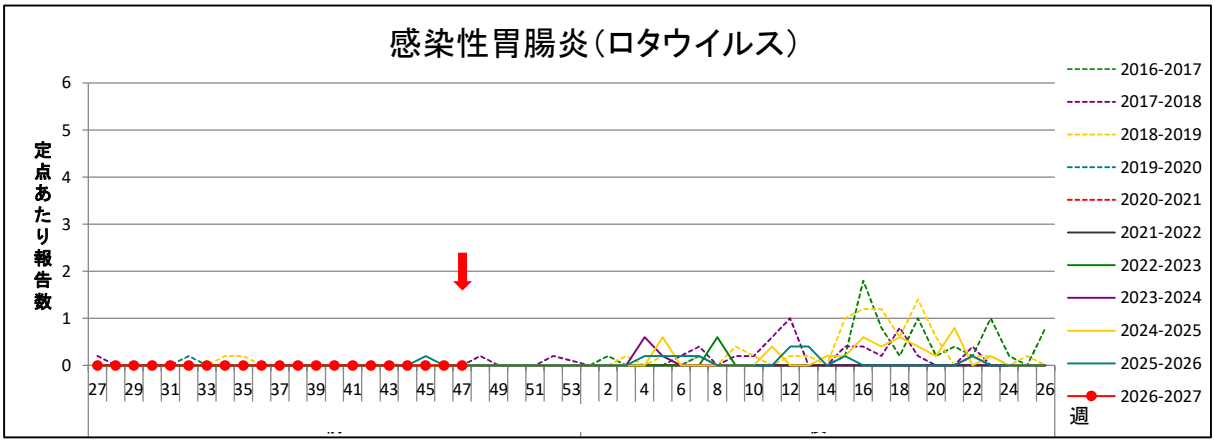

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026
2026-2027